

みどり通信

第54号
2026年4月1日

2026

4

令和8 卯月

背景は
青い空
こぶしの花
握り拳の幹
高い木



幼子の

天真爛漫

眠る顔

春風と

桜並木の

花吹雪

「桜祭りとバザー」

秋野文子

みどり会の活動は様々あった。

金子会長の時代、久保会長の時代、私も 35 年前のことから思い出してみた。

4 月は、何と言っても、けやき会館でのバザーを思い出す。

朝、早くから久保夫妻が出られ、搬入した衣類や雑貨を広げたりした。

三々五々、会員が集まっていた。分担は例会で決めてはあった。

差し入れの海苔巻きを持って来る人、娘さんと買いものに来る人、楽しい時を過ごした。

実際、当日はちょっとした小競り合いもあったりした。

みどり会を、しよって市民の前に対面販売で立つことを考えれば、それなりの行動が生まれた。

私は思わぬ人から、商売が上手いと誉められたことがあった。

今、思えば大事な実践の場だった。



「死んだらどうなるのだろうか」2

ふぁ爺

みどり通信 53 号（'26 3月）で、私たちの意識は脳の活動によって生じる現象である、と捉えることとした。

この私の意識について考えると、それはあらゆる存在の中で第一番目に現れる、とすることが出来る。ゆえに私ほど確かな存在はない。そのほかの存在は、私の意識を通してはじめて現れる。

この宇宙でさえ、私に知られてその存在が明確になる。その見返りとして、私は宇宙という自分の居場所を確保する。

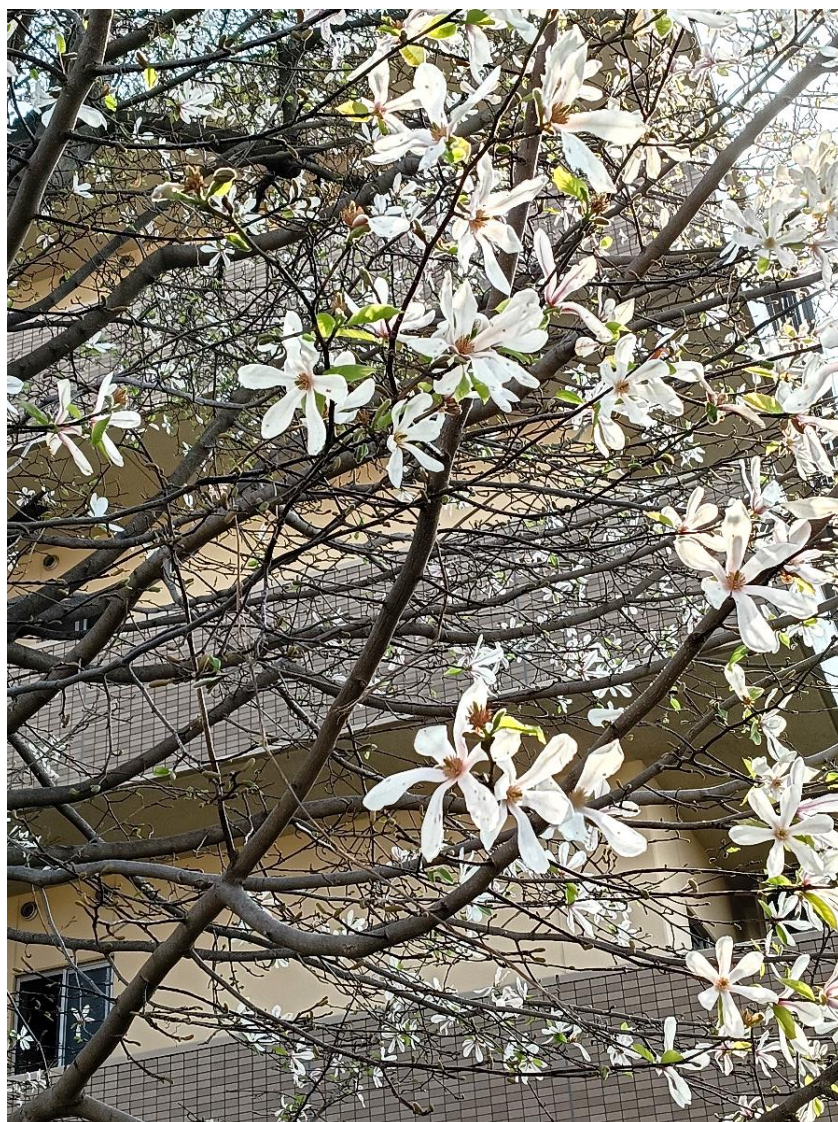
さて、私から見て、あなたの意識は存在するだろうか。あなたの意識は、私には見ることも手に取ることもできない。だが、私はあなたの意識が

存在することを直感する。私にとってあなたは存在する。

ではあなたは、私の心が存在することを認めてくれるだろうか。もし認めていただければ、私の存在はより安定したものになるように思われる。



3月9日八景島シーパラダイスにて



辛夷

みどり通信54

編集後記

人が人の命を奪うなんてことは、賛成とか反対とかとは次元の違うことだと思う。

私は 82 年前に生まれ浜松大空襲の中、生き伸びて今がある。

秋野

midori2shin@gmail.com

